（様式3）

令和３年度（2021年度）公共事業再評価調書

基準年月日	令和３年８月１日

調書番号	08-01	所管部	建設部	作成責任者	建設部土木局道路課長　泉　智夫
				担当係	道路計画係（内）２９－２１８

Ⅰ　基本事項（基準日時点）

事業種別	道路改築事業費（道路メンテナンス事業費補助）	地区名	恵庭栗山線（えにわくりやません）	市町村名	長沼町・栗山町

事業費	5,130 百万円	負担割合	国	60.0%	道	40.0%	市町村		その他	
			3,078 百万円		2,052 百万円		百万円		百万円	

事業目的・目標

●恵庭栗山線の馬追橋は、栗山町市街地と長沼町北部を結ぶ区間に位置し、長沼町、南幌町などの道央都市圏へ接続するなど、住民生活・産業振興を支える重要な橋梁である。
●馬追橋は、昭和34年（1959年）に供用し現在まで62年経過しており、床版部に老朽化による損傷が進行していること、河床洗掘により、橋梁安定性の低下がみられることから、早急に安全な道路機能を確保する必要があるため、架替を実施する。

【アウトカム】　等

●橋梁の予防保全化率の向上
●日常生活の利便性及び安全性の向上

事業概要

主要道道恵庭栗山線は、恵庭市の国道36号と栗山町の国道234号を結ぶ幹線道路である。
本事業は、当該路線内の老朽化している馬追橋の架替を実施し、安全な道路交通を確保するものである。

工事費内訳

	（百万円）	（百万円）
【現況】延長L=1.35km⇒0.82km 橋梁部：W=6.0m+2.5m、道路部：W=6.0+2@1.25+2.5m		
【計画】延長L=1.35km⇒0.82km 橋梁部：W=6.5+2@1.00+2.5m、道路部：W=6.5+2@1.25+2.5m		
橋梁工（上下部、仮橋、旧橋解体）L=315m⇒311m	2,602	4,516
道路改良工　L=1,035m⇒511m	134	205
測量設計費　1式	118	293
用地補償費　1式	6	116
計	2,860	5,130

総合計画での位置付け

施策名	大規模自然災害対策の推進（長寿命化）	総合計画：大項目	人・地域
総合計画：中項目	持続可能な社会・経済を支える社会資本の整備	総合計画：小項目	産業活動や暮らしを支える社会資本の戦略的・効果的な整備
施策目標	「北海道橋梁長寿命化修繕計画」に基づき、橋梁の修繕･更新を実施し、安全で円滑な道路交通の確保に努めるほか、河川管理施設等の必要な治水機能を確保するため、施設ごとの長寿命化計画に基づき補修・更新を行う。	関連する指標	橋梁の予防保全化率（道道）

Ⅱ　公共事業評価経過

（単位：百万円）

事業経過	事業採択	着手	評価年度	完了予定	経過年数	事業費	総事業費(a)	道負担額	当該年度事業費	累計事業費(b)	進捗率(b)/(a)
事前評価又は当初	H28 (2016)	H29 (2017)		H35 (2023)			2,860	1,144			
前回評価											
今回評価	H28 (2016)	H29 (2017)	R3 (2021)	R8 (2026)	5		5,130	2,052	440	1,293	25%

変更理由・内容

●河川管理者との協議及び詳細な調査設計の実施により、橋梁上部工および施工時仮設の規模が増大したことや資材及び労務単価の上昇、消費税率の変更などにより事業費が増額。
●工事行程の精査や検討を行い、事業期間を延伸。

Ⅲ　事業採択前の状況

1．事業採択に至る経過と背景

●橋梁上部の健全性が懸念されたことから、橋梁実応力調査解析を平成19年度（2007年）および平成20年度（2008年）に実施。その結果、床版張出部の耐力不足が判明したため、20t車両の通行規制を行っている。あわせて、橋梁の変状に迅速に対応するため、桁等にセンサーを設置し、24時間、変位を計測しながら供用している。
●橋梁幅員の狭小により大型車のすれ違い困難な状況であるため、円滑で安全な交通に支障を及ぼしている。
●現在の道路は、高水敷内に設置されており、洪水時に道路が分断される恐れがあるなど、防災上の課題がある。

2．事業検討の手続（住民ﾆｰｽﾞの把握等）

●平成 9年（1997年）～　栗山町より事業の早期着手の要望を受けている。
●平成11年（1999年）～　空知地方総合開発期成会より事業の早期着手の要望を受けている。
●平成22年（2010年）～　長沼町より事業の早期着手の要望を受けている。

3．事業効果を及ぼす地域・対象

●橋梁拡幅による交通の安全性向上
●定期バス路線となっている長沼町、南幌町と栗山町を連絡する生活道路としての利便性の向上
●栗山町の南空知消防組合は北長沼地区を管轄し、災害など緊急時において隣接の市町村との連携が必要であり、防災・災害時の救援活動等を支える役割

4．関連する事業

事業名	事業主体	事業期間	事業費（百万円）	事業内容

Ⅳ　事業の実施状況

1．進捗状況

（1）事業実績及び今後の計画

施工（工種）区分	工事内容	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	進捗状況	事業費（百万円）
道路改良工事	L=0.511km										L=0.511km		0%	205
橋梁工事	L=0.311km、下部=8基							下部	上部				0%	3,150
仮橋・仮道工事	L=0.654km		設置								撤去		63%	931
旧橋解体工事	L=0.183km					上部・下部		下部					93%	435
測量設計費	調査・設計												82%	293
用地補償費	用地買収・物件補償												52%	116

（2）進捗状況

橋梁詳細設計や道路橋示方書改定及び河川協議等により仮設工の事業費が増大しているが、河川協議も整い、令和3年（2021年）6月には仮道を供用したことから、今後は、概ね計画どおりに進捗が図られる見込みである

b	a：概ね予定どおり実施している。 b：事業計画・期間等を変更し実施する。 c：問題が生じ、実施に支障をきたしている。

2．事業効果

評価指標	効果の有無	主な効果等
防災・災害時の救援活動等	○	災害時に通行不能となった場合、道央圏からの救援活動など大きな影響を及ぼす
住民生活	○	定期バス路線になっている。長沼町、南幌町と栗山町（栗山駅、大規模小売店舗等）を連絡する最短ルート
地域経済・地域社会等	○	南空知消防組合（栗山町）から長沼町、南幌町を結ぶ最短ルート、栗山工業団地と道央圏を連絡する輸送経路

床版部の損傷や河床洗掘の進行による橋梁安定性の低下など、補修・補強では対応が困難なため、北海道橋梁長寿命化修繕計画において「架替」橋梁と位置づけられている。

備考

北海道橋梁長寿命化計画で架替と位置づけられた老朽化による更新を目的として行う橋梁架替事業は、北海道における道路事業の評価マニュアル「2道路橋梁の架け替え事業の評価マニュアル」に基づき、「防災・災害時の救援活動等、住民生活、地域経済・地域社会等」の3つの指標で評価

3．コスト縮減などの取組	取組の項目	取組内容	縮減額（百万円）
	資源循環の促進	再生アスファルト合材、再生コンクリート骨材の使用	7
	橋梁幅員の見直し	橋梁部の路肩に縮小値を採用（1.25m→1.00m）	44

Ⅴ 評価

1．必要性

●馬追橋の床版部では、ひび割れ、剥離等による損傷の進行が著しく、また、橋脚部では、河床洗掘に伴いケーソン基礎が露出し橋梁の安定性が低下し、補修・補強では対応するのが困難な状況にあることから、早急に架替を行う必要がある。
●当該橋梁箇所は、防災・災害時の救援活動、公共交通の確保、住民生活・地域経済を支える重要な役割を担う路線であることから、道路交通の安全・安心を確保することが必要である。
●北海道橋梁長寿命化修繕計画において「架替」橋梁と位置付けられている。
●事業の必要性に変化はなく、着実に事業の推進を図る必要がある。

a　a：事業の必要性に変化はなく予定どおり事業を推進する。　b：着工後の状況変化により事業計画の変更が必要である。
c：着工後の状況変化により事業推進の是非を判断する必要がある。

2．事業を推進する上での課題

（1）環境上の配慮及び課題

●河川汚濁防止のための汚濁水処理などについて配慮し、施工する。

（2）事業推進に対する住民の動向

●空知地方総合開発期成会から、当該路線の整備促進について継続的に要望を受けている。

（3）その他の課題

●特になし

3．事業達成の見込み

河川協議・許可占用申請も完了したことから、事業の進捗に影響を与える要因も無いことから、事業の達成が十分に見込まれる。

a　a：現時点では事業の進捗に影響する課題はなく、達成が見込まれる。
b：課題はあるものの達成は可能である。
c：大きな課題があり達成には相当の困難が予想される。

4．対処方針

事業の達成が十分に見込まれ、事業の必要性に変化は無いことから、事業継続とする。

a　a：継続　b：終了　c：休止　d：中止

事業期間変更の有無	有	事業費変更の有無	有	事業内容変更の有無	目的・規模等に係る変更	左記以外の変更
					無	有

Ⅵ 備考

1．評価履歴

事前評価：平成26年度（2014年）評価　評価結果：要望を行うことは妥当　B／C：－
再評価：該当なし

2．その他の取組事項

補足資料

Ⅶ 事業計画変更

（単位：百万円）

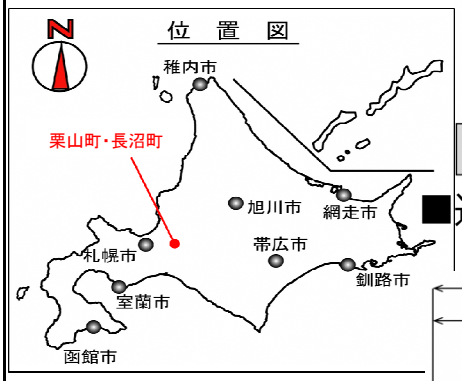
事業経過		再評価	事業採択	着手	変更年度	完了予定	経過年数	事業費	総事業費(a)	道負担額	当該年度事業費	累計事業費(b)	進捗率(b)/(a)
	事前評価又は当初		H28 (2016)	H29 (2017)		H35 (2023)			2,860	1,144			
	変更①	1回目	H28 (2016)	H29 (2017)	R3 (2021)	R8 (2026)			5,130	2,052	440	1,293	25%
	変更②												
	変更③												
	変更④												
	変更⑤												
	変更⑥												
	変更⑦												
	変更⑧												
	変更⑨												
	変更⑩						5						

変更理由・内容

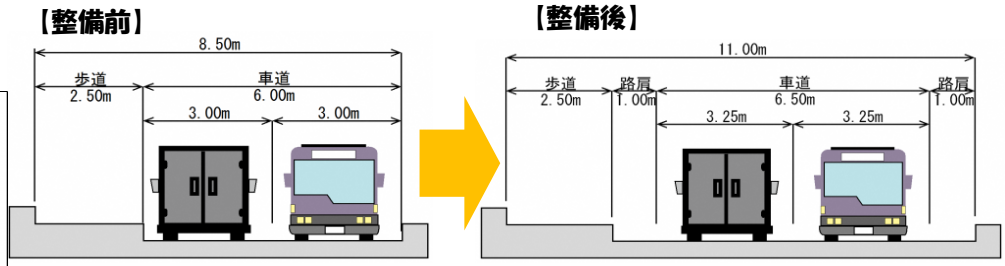
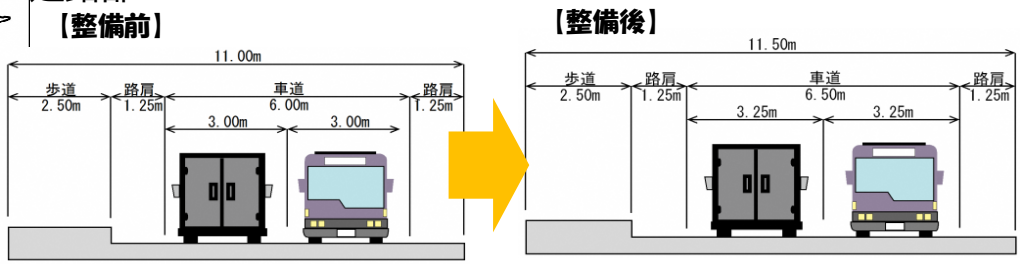
変更①：事業延長の変更
・起点部詳細調査の結果、短い区間ですり付けが可能であることが判明したことによる事業延長が短縮
事業費の変更
・橋梁詳細設計や道路橋示方書改定に伴う橋梁工の増額、河川管理者との協議及び詳細な調査設計の実施により施工時仮設工の規模が増大するなどにより事業費が増額
・資材及び労務単価の上昇や消費税率の変更
・物件調査の結果、補償工法の変更に伴う変更
事業期間の延伸
・河川協議において、橋梁（新橋、仮橋、旧橋解体等）施工に伴う河川阻害への対応協議に時間を要したことにより事業期間が延伸

事　業　概　要　図

事業名	道路改築事業費 （道路メンテナンス事業費補助）	地区名	恵庭栗山線



■橋梁部



■道路部